

第四節 寛延百姓一揆

一 一揆の動き

天 災 讃岐では、延享元年（一七四四）八月に大風雨、九月には長雨、延享三年は八月に洪水、寛延元年（一七四八）八月にも風雨による洪水、同二年は六月に大風に見舞われたという（『県史近世』）。被害を受けた地域とその程度は不明であるが、延享元年以降、天候不順であったらしい。

信憑性の高い一次史料である寛延二年「多度津藩日記」（県立図書館蔵）によると、六月二十六日は激しい風雨となり、七月二日～四日にかけて、大雨が降り続き、各地で洪水が起こったとある。この大雨によって、多度津藩領多度郡山階村（現多度津町）では一五〇石余の村高の約二割に当たる三〇〇石余が損害を受け、家屋も一一戸が全壊、二戸が半壊の被害を受けたことがわかっている。

同じく一次史料である豊田郡井関村（現大野原町）佐伯家文書の延享三年「万覚帳」によれば、同年洪水が起こったことを確認できる。寛延元年の同「万覚帳」に従えば、九月二日から三日間大風雨に見舞われ、稲作では三割、木綿作等では五割にも及ぶ被害が、井関村とその周辺に出たことが知られる。